

# 網取よ、よみがえれ

## 1. 学校が消えると村が消える!?

西表島の西の方に、ギザギザになっている地域があります。この地域の白浜部落より先には道路がありません。これが、網取や船浮が「陸の孤島」と呼ばれる理由です。

「竹富町の立体地図」を使って網取の場所を確認してみましょう。

網取村がなくなったのは、1971年(昭和46年)の夏のことでした。戦後200名も住んでいた村民もどンドン村を去り、1971年には戸数は7戸になり、学校もなくなってしまいました。それと同時にのこりの36名が移住を決め、この年の7月14日をもって網取村の火は消えたのでした。



やってみよう『絵であらわしてみよう』

次のあきら君(当時10才、小学校4年生)のお話をもとに網取での生活を思い浮かべながら、みんなで分担して絵にかいてみましょう。

### (1) ぼくのふるさとあみとり

ぼくのふるすとはあみとりです。村のうしろには緑の山があります。村の前には白い砂浜と青い海がひろがっています。

おじいさんがぼくにおしえてくれました。「むかし、この浜に石垣の漁師がやってきて、あみを浜辺いっぱい干したものじゃった。そのあみでこの白い浜はまっくらじゃった。そして朝早くから『アント・レ』という漁師の声にわしも起こされたものじゃった。」おじいさんはそれで網取という名前がついたというのですが、ぼくは変だなあと思いました。

### (2) なんちを食べました

ようちえんのころ、みんなとふくろをもって、山になんちをとりにいきました。

なんちをとる人とふくろをもつ人を決めて、ふくろにあふれるぐらいいれました。なんちは濃いむらさき色のしるがでます。

ふくろに手をつっこんでなんちを食べていると、いつのまにか手がむらさきになっていました。

(3) ハブにかまれた!!

2年生のときでした。ぼくのともだちの則和くんがハブにかまれて大さわぎしたことがありました。

村のおじさんが舟をだしたのですが、波があれでいて、波がくるたびに則和くんのからだは舟にうちつけられるのです。

お医者さんは10キロメートルもはなれた祖納というところにしかいません。しかも旅行とか交代とかでいない時が多いのです。その時は村の人びとのおかげで助かりました。でもあの時の不安な気持ちは今でも忘れられません。

(4) 給食のパン

ぼくが3年生の時、学校の給食にパンがでるようになりました。最初のころは真っ黒なパンやビスケットのようなパンがでてきました。

でも始めてから1ヵ月後には、ふっくらとしたあつたかいパンがでるようになりました。パンが焼きあがったときのあのなんともいえない「いいにおい」がぼくをなやましたものです。

(5) いねかり

6月になるといねかりがはじまります。ぼくはいなたばの運び勝負をしました。

友だちのけんちゃんはずかされて運べなくなってしまって、ぼくまで先生にしかられました。

いねかりが終ると、いのこずちや、せんだん草にさされてちくちくかゆいので、海のなかにとびこんで日ぐれまで、みずかけあそびや、おにごっこをしてあそびました。

(6) ツノマタとり

8月には、おじいおばあとサバニにのって、ツノマタを取りにいきました。

手ぶくろをはめて、あまぐつをはいて、たらいのあなにひもをとおして、おなかにひもをくくって海におりました。海がつめたかったので、水中めがねをかけて、体をあたためにもぐったり、犬かき泳ぎをしたりしました。あたたかくなったので、ツノマタをたらいにたっぷり取って、サバニにおとしました。

(7) 節祭のハーリー

9月頃になると、いつものんびりしている村はにぎやかになってきます。節祭があるからです。

節祭といえばやっぱりハーリーです。大人の人だけがハーリーにのることができ、2そうのハーリーが東と西にわかれて3回競争します。3回めは、なぜか必ず西のハーリーが勝ちます。おじいがどうしてかおしえてくれました。

「西が勝つのは西には神様がおるからじゃよ。村に神様がやってくるのも、海の幸、山の幸がやってくるのも、ぜんぶ西の方からくるんじゃ。だから西のハーリーが必ず勝たなくちゃあなんのじゃよ。」ぼくはなるほどと思いましたが、はやく大人になってかっこいいハーリーをこぎたいです。

(8) さかなつり

この前、父ちゃんが初めてさかなつりにつれていってくれました。ナイロンとやどかりをもっていきました。

サバニにのって海の沖の方までいくと、大きな波がゆっくり舟にぶつかってきました。ぼくはそのとき前にころびそうになりました。父ちゃんは動かないで前ばかりみてかじをとっていました。

父ちゃんはさかなのいるところでアンカーを海の中の石にひっかけました。つり糸をたらすと、すぐにさかながひっぱったので、ぼくはいっしょうけんめいたぐりよせました。たぐるのを父ちゃんがてつだってくれました。さかなは大きくてふとっていました。父ちゃんにほめられました。

(9) 田植え

ぼくは田植えの前、父ちゃんが水牛をひくのが好きです。田んぼの水が波のようにドンドンよってくるのがかっこいいのです。

それから田植えが始まります。冬の寒いふぶきのような雨の中でも、父ちゃんと母ちゃんはいっしょうけんめいなえを植えます。うつむいてなえを左手から右手へ、右手から田んぼへ。きついだろうなあ。寒いだろうなあ。

田植えが終わると、ジューシーメーとさしみのごちそうがいつもまっていました。

(10) いのしし

ぼくの父ちゃんは、いのししとりの名人です。父ちゃんがいのししをかかえて帰ってくると村の人みんながめしをもってきて、ぼくのうちはにぎやかです。

母ちゃんが、さしみ、すき焼き、なかみじる、をつくります。父ちゃんは、いのししがとれるまでのじまん話をしています。ぼくはそんな父ちゃんが大好きです。

## 2 . 網取よ、よみがえれ

網取村がなくなって、30 年以上の月日が流れました。今では東海大学の研究生たちと、その研究生たちの水や食べ物をはこぶ船頭さん以外には、網取に行く人はめったにいません。あきら君もすっかり立派な大人になりました。

網取の人たちがあつまるたびに、網取に碑をたてようという話がまきおこっていました。そして、1997(平成 8)年、ついに網取村の人たち念願の碑が建てられたのでした。

< 網取村に建てられた碑 >



網取村の碑文には次のようなことが書かれていました。

< 網取村跡の碑 >

網取村は西表島の最南端に三百有余年の歩みを残した。耕地や交通の不便と人頭税の重圧に耐えて村人は父祖の築いた繁栄を守ってきた。しかし、政治の貧困による経済の行きづまりと、医療、教育の不備を始めとする孤島苦がつのり、ついに昭和四十六年七月十四日に全員離村を余儀なくされた。ここに私たちは全体の祖先の霊を祀り、四散した村人のよりどころとするためこの碑を建てる。

平成八年九月 吉日

うるち会建立



やってみよう

網取村の碑文を読んでみて、共感したところに線を引いてみましょう。